



生誕300年祭に向け2001谷川士清生誕記念事業

「士清ブーム」を定着させた 《第1回ことすが書初めコンクール》

…士清大賞、三重県知事賞、津市長賞、津市教育長賞…

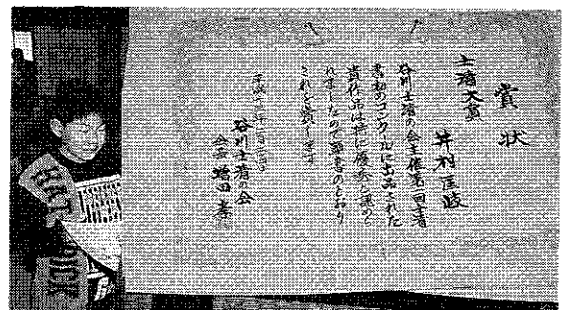
昨年末の「第1回谷川士清を描こうコンテスト」の成功を踏まえ、津の生んだ偉大な国学者・谷川士清の生誕を記念して「第1回ことすが書初めコンクール」を実施した。谷川士清は日本初の五十音国語辞典〔和訓栞〕、日本書紀の全巻通釈書〔日本書紀通証〕などを著し、江戸期より現代の学問に絶大な恩恵を遺し、今も私たちの言葉に生き続けていることに着目し今回の事業を「谷川士清を全国発信する好機」として位置づけ研修部会が中心となって企画したもの。対象は小学生以上で文字は士清に関するもの「谷川士清」「和訓栞」「和語通音」「日本書紀通証」などの書作品を募集。優秀作品には「士清大賞、知事賞、市長賞、市教育長賞」等の表彰を行った。この事業において「士清ブーム」を不動のものとしようと「谷川士清の会」の威信をかけて実施した。



昨年末から報道各社にアピール願うとともに、市教委文化課の協力を得て、ポスター・参考手本（書家若林信香揮毫）、応募用紙を市内全小学校23校に「冬休みの書初め」として募集を行った。民官協働の好例といわれ、1市民グループでは成しえないそのスケールは多くの人々の協力と賛同の賜物と感謝はつきない。来年度は津市内全中学校10校及び県教委の協力を依頼するなど、県内全小中学校の参加を呼びかけ幅広い市民参加のうねりとして展開したい。

「谷川士清生誕292年」2月26日の前々日、2月24日（土）生誕事業の「ことすが書初めコンクール表彰式」等を谷川士清旧宅（国指定史跡・津市所有）で行った。百数十人もの入賞・入選者と家族等が参加し、熱気につつまれた。式典は田中彌津市教育長の挨拶の後、谷川士清研究家、元松阪短期大学教授、三ツ村健吉顧問の講演を行った。さながら、会場となった谷川士清旧宅は、遡ること江戸期、元正元年（1736）に谷川士清が「洞津谷川塾」を開き数多くの門弟に教授したその時を彷彿とさせた。「士清先生の清新な思いに近づき、精神的、学問的に立派な人になって下さい」との言葉に熱心に聞き入っていた。

田中津市教育長、増田代表より表彰状を渡された子どもたちの笑顔には、谷川士清に近づいた精神的な強さが溢れていた。この作品の審査は若林信香と研修部会が中心となり、最終評定は津市在住の書家、莞歌社審査員、長岡雅風先生に願った。長岡先生は谷川士清大賞に輝いた井村匡岐君（安東小3年）の作品「ことすが」を「毛筆の持つ優美さ、力強さで士清先生を的確に表現できた素晴らしい佳品」、同じく士清大賞受賞の川邊幸治さんの「反古冢」は「墨量が入り書作品として芸術性が高い。また拓本を取るなど士清先生に寄せる思いが人一倍入魂している」と評した。



谷川士清旧宅の会場に優秀作品22点、入賞作品168点を2月24日（土）～3月11日（日）一堂に展示し市民に開放した。続いて、渡辺紅梅塾の生徒さん等による「谷川士清の揮毫」では、それぞれの思いを託した作品の出来ばえに参加者から大きな拍手があがった。この作品も展示された。

今後、県・津市教育委員会の協力を得て、子ども達の「冬休みの書初め」「夏休みの絵画」としての「ことす